

事業間連携砂防等（砂防）事業再評価調書

路線・河川等名		シシ伏川 ^{ぶせ}	事業名	事業間連携砂防等事業	補助・単独の別	補助
事業主体		京都府	事業箇所（区間）	きょうたんごしたんごちやうたいざ 京丹後市丹後町間人 地内		
事業概要	目的	シシ伏川は京丹後市丹後町間人に位置し、流域面積 0.08 km ² で人家 11 戸、府道、市道を保全対象とする溪流である。過去の崩壊によって生産された礫質土が随所で溪床に堆積し荒廃竹林を形成するなど、土砂災害の危険性が高い状況にあり、台風による大雨や近年多発する局所的な集中豪雨による被害の拡大が懸念されることから、土砂災害の被害軽減を図り、地域の安全、安心を確保するため、土砂災害対策工事を実施する。				
	内容	砂防堰堤 N=2 基、溪流保全工 L= 36.3m、工事用道路工 L= 391.5m 全体事業費 : 6.1 億円				
	上位計画等	京都夢実現プラン 丹後地域振興計画				
	進捗状況及び今後の見込み	現在、砂防堰堤の管理用通路を整備しており、今後、上流部からの土石流を捕捉するための砂防堰堤工事を実施する見込みである。（令和 3 年度までの事業費約 5.3 億円）				
事業の必要性	事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等の変化	現在、流域内における砂防設備は未整備であり、今後の降雨により上流部から土石流による土砂災害があった場合には、保全対象である周辺の人家、府道、市道が埋塞する恐れがあるため、地域住民に与える影響は大きい。				
事業の有効性	事業の投資効果及びその要因の変化	土石流による土砂災害から下流に存在する人家、府道、市道（大規模災害時の避難経路としての機能有り）を保全し、人命を守る事業であり、投資効果は大きい。				
事業の効率性等	コスト削減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・保全	工事用道路工の法面工及び砂防堰堤工を施工する中で、地形の改変を最小限に抑え、自然環境への負荷軽減に努める。 現地発生土を他工事に積極的に流用調整することで他工事を含めた総事業費のコスト削減を図る。				
総合評価		本事業は、土石流による土砂災害からの人命保護及び地域の安全確保の観点から引き続き事業を継続する必要がある。				

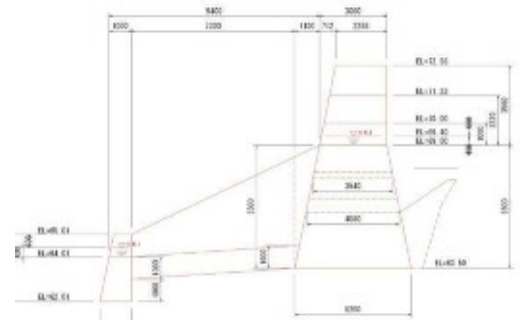
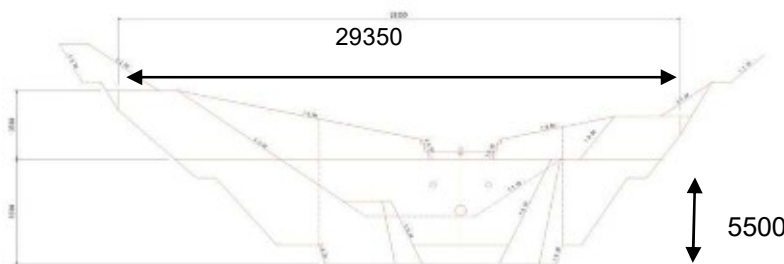
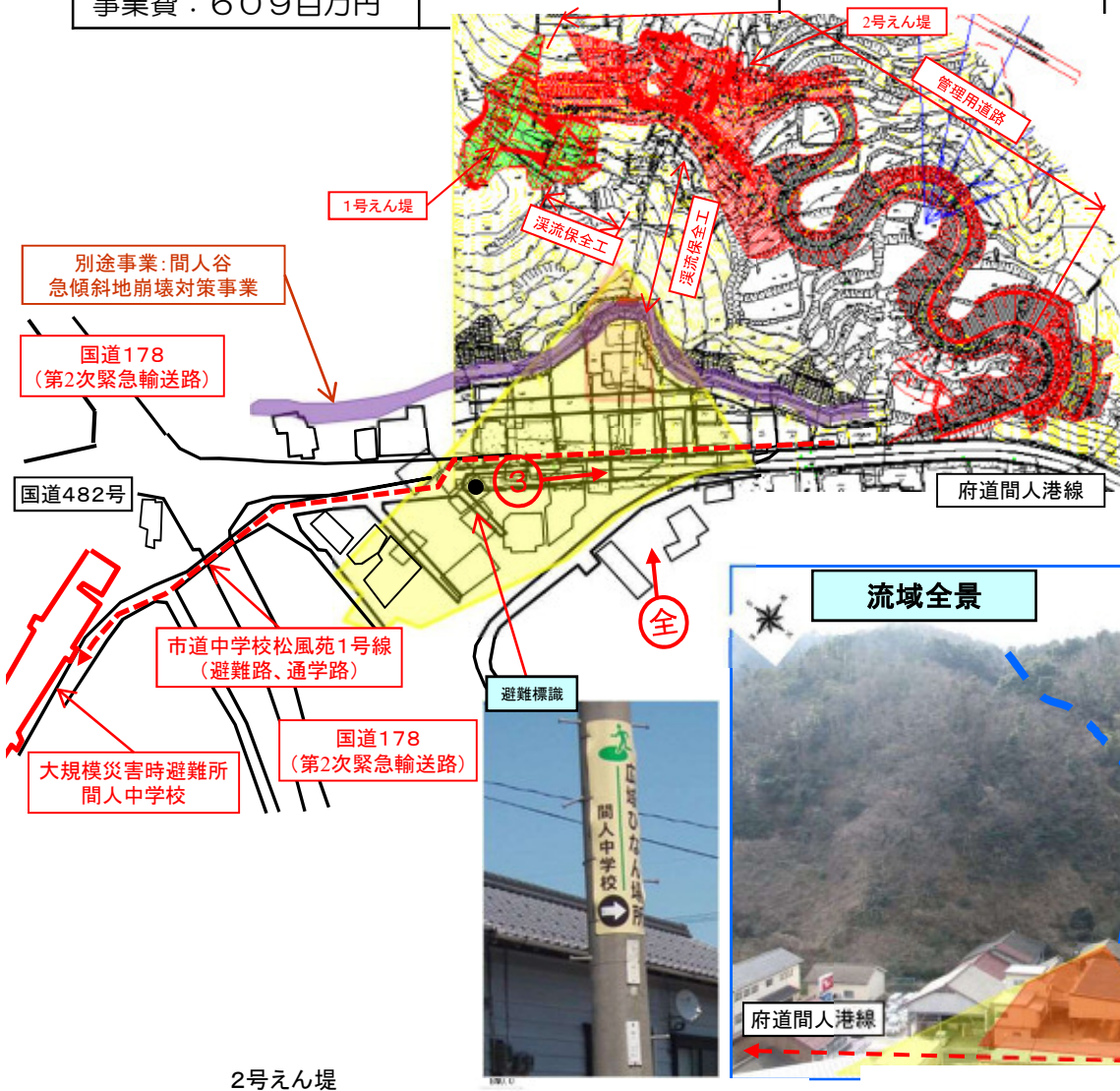
ししぶせがわ
竹野川水系 シシ伏川 事業間連携砂防事業
 きょうとふ きょうたんごし たんごちよう たいざ
 京都府 京丹後市 丹後町 間人

○事業目的

シシ伏川は京都府北部丹後半島の京丹後市丹後町間人に位置し、保全対象として人家11戸、府道及び市道（避難路）を含む渓流である。
 今後の大雨により土砂災害の発生が懸念され、早急に対策が必要である。

◎事業概要

全体計画	R3年度までの実績	R4年度計画
H24～R5 測量、調査、設計、用地測量、砂防堰堤工、渓流保全工、管理用道路 事業費：609百万円	測量、調査、設計、用地測量、用地買収、 事業費：532百万円	砂防堰堤工1基 渓流保全工1式



『^わ環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

作成年月日	令和 4年 2月 25日
作成部署	建設交通部砂防課

事業名	シシ伏川 事業間連携砂防等事業	地区名	京丹後市丹後町間人 地内		
概算事業費	6.1 億円	事業期間	平成24年度～令和5年度		
事業概要	砂防堰堤、溪流保全工、工事用道路工				
目指すべき環境像	事業箇所周辺は、豊かな自然環境や景観に恵まれていることから、事業実施に当たっては、自然環境に与える影響を可能な限り小さくするよう配慮する。 また土砂災害の発生を防止する事業であり、地域住民の安心・安全を確保すると共に動植物の生育環境と長期的な環境の保全により、地域の生活環境の保全に寄与する。				
関連する公共事業	なし				
評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価	
主要な評価の視点	選定要否				
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO ₂ 排出量等)	法面が崩壊し、管理用通路予定地には崩壊に伴う土砂や流木が存置しているため、崩壊の進行を防止し、管理用通路法面の地形の保全を図る必要がある。 流域において、指定希少野生生物が存在する可能性がある。	法面工を整備することで、法面崩壊を抑制し、現地地形の保全と植生の回復を図り、管理用通路を安全に通行できるように努める。 野生生物の個体の生息又は生育の環境への影響を最小減となるよう配慮する。		
	地形・地質			○	3
	物質循環(土砂移動)			○	4
	野生生物・絶滅危惧種			○	3
	生態系			○	3
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン	溪流下部に住宅地や私道が位置しているため、工事期間中の土壌流出や工事車両や施工機械による騒音・粉じんを抑制する必要がある。 砂防土工により残土が多く発生するため、別工事への流用や再利用を検討する必要がある。 工事に先立って土壌分析調査を行った結果、鉛及びその化合物が環境基準値を越える値が検出されている。	工事実施中は、低騒音・低振動機械を使用することを原則とする。 粉じんが発生する工程では、散水や防塵シートを使用する等、日常生活に支障を及ぼさないよう、配慮する。 また、建設発生材は当該工事や近傍の公共工事や民間工事と調整し、再利用に努める。 汚染土壌の除去及び適正な運搬・処理を行う必要がある。		
	水環境・水循環				
	大気環境				
	土壌・地盤環境			○	2
	騒音・振動			○	3
	廃棄物・リサイクル			○	3
	化学物質・粉じん等			○	3
	電磁波・電波・日照				
その他					
地域個性・文化環境	景観	溪流下部に集落が形成されており、豊かな自然環境や景観に恵まれていることから、植生等の環境の改変を最小限に止める必要がある。 地元住民に工事の周知を行い、本事業の意義を共有し理解を促す必要がある。	材料の選定においては、地域の自然環境との調和を図るように努める。 工事 PR 看板を設置して完成予定の構造物の形状や役割を図示することで、地元住民はどのような恩恵を得られるのかを伝える。	5	
	里山の保全				
	地域の文化資産				
	伝統的行祭事				
	地域住民との協働			○	4
その他					
外部評価					